

## 会議議事録

1 会議名	平成 28 年度 長岡市スポーツ推進計画（仮称）策定に伴う第 1 回策定検討委員会及び第 1 回策定ワーキング部会
2 開催日時	平成 28 年 7 月 28 日（木）午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで
3 開催場所	さいわいプラザ 3 階中央公民館 301 教室
4 出席者名	<p>【策定検討委員会】 8 名（10 名中） 篠田委員、野口委員、小林（文）委員、小林（淳）委員、丸田委員、樺澤委員、結城委員、山岸委員</p> <p>【策定ワーキング部会】 9 名（10 名中） 木村（代理）委員、梅沢（代理）委員、佐々木委員、桜井委員、渡邊委員、牛木（代理）委員、西澤委員、茨木（代理）委員、室賀委員</p> <p>【市事務局】 6 名 近藤市民部長、スポーツ振興課（川上課長、田上課長補佐、北原係長）、委託業者（木村）</p>
5 欠席者名	<p>【策定検討委員会】 穂刈委員、渡辺委員</p> <p>【策定ワーキング部会】 伊藤委員</p>
6 議題	<p>○長岡市スポーツ推進計画（仮称）策定について</p> <p>①前期スポーツ振興基本計画の検証について</p> <p>②市民意識調査集計結果について</p> <p>③長岡市スポーツ推進計画（仮称）の策定方針について</p> <p>④長岡市スポーツ推進計画（仮称）に対する意見、提案について</p>
7 協議結果の概要	<p>○ 策定検討委員会は篠田委員長、野口副委員長に決定。（議長は篠田委員長）</p> <p>○ 前期スポーツ振興基本計画の検証、市民意識調査集計結果を報告した後、計画の策定方針を検討し、了承を得た。</p> <p>○ 意見交換では、スポーツの捉え方、施策の柱立て（「育てる」の取り扱い）、障がい者スポーツ、高齢者の健康づくり、食生活などに関する意見があり、次回以降の会議で検討することとした。</p>
8 協議の内容	（次頁参照）

<p>委員長 事務局</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員長</p>	<p>■議題①前期スポーツ振興基本計画の検証について（事務局から資料説明）</p> <p>10年前の目標値はどのような考え方で設定されたのか確認したい。</p> <p>今回同様、策定委員会で協議し、それまでの状況、今後の伸びなどを想定して目標項目及び数値を設定した。</p> <p>10年たって達成率が低いものが多数ある。目標値はこれからの計画策定に大事なことであるため、丁寧な分析と目標値設定のポイントが明確になるとよい。</p> <p>目標には「理想の目標」と「現実的な目標」があるが、当時の考え方はどうだったのか聞きたい。</p> <p>文部科学省や日本体育協会の計画でも目標設定を行っており、本市の計画もそれに準じた形で行った。また、本市の関係所管の関連計画と整合を図り、目標値を設定した。項目によっては理想的な目標設定もある。10年前の目標値の根拠を踏まえ、次期の目標設定の考え方を提案していく。</p> <p>現行計画は当時の現状に沿った内容と思うが、理想的な目標値が多いと感じる。例えば、参加率60%全員が参加する受皿があるかを考えるとこの割合は現実的ではない。一方、市民に関心を持ってもらうために、あえて60%を目標としたということもあると思う。目標については状況を判断しながら、今後の議論を進めていきたい。</p>
<p>委員長 事務局 委員長</p> <p>事務局 委員</p> <p>事務局</p> <p>委員長</p>	<p>■議題②市民意識調査集計結果について（事務局から資料説明）</p> <p>前回調査の年齢構成を教えてください。</p> <p>今回は、今回同様、市内に居住する18才以上を対象にした。</p> <p>回答者は60才以上が4割近い。前回と同じような年齢構成なら、スポーツ志向から健康志向に変化したと考えられる。前回より高齢者が多かった場合、前回から10年間、年齢を重ねて考え方が変化したと解釈もできる。計画策定を進める上でこうした点も踏まえる必要がある。</p> <p>今後、アンケートのクロス集計を行う。委員の意見を踏まえて結果を提供する。</p> <p>アンケートの質問に「スポーツと運動」と書かれているが、スポーツと運動をどのように区別しているのか聞きたい。</p> <p>スポーツを「競技」という狭い意味で受け取る方が一般的と想定した。そのため、狭い意味に限定されないよう、「スポーツや運動」と表記した。</p> <p>策定委員会として出席した新潟県スポーツ推進審議会でも、県計画を策定する際、スポーツという言葉について議論を重ねた。その結果、日常的な活動全般を運動とし、運動とスポーツとして幅広く捉えるという考え方にまとまった。スポーツや運動を「気軽な身体活動」として捉えた方がよいという話があった。</p> <p>「スポーツと運動」の区別については、他の自治体の計画も参考にしながら、計画策定の過程で精査していくことにしたい。</p>

委員	<p>■議題③推進計画（仮称）の策定方針について（事務局から資料説明）</p> <p>基本施策は次回以降に検討するという説明だが、資料の基本施策イメージの中で、前回計画の「育てるスポーツの振興」ではなく「競う（競技）スポーツの振興」に変更した背景を聞きたい。また、第1章の項目の考え方を聞きたい。</p>
事務局	<p>スポーツ政策は、「生涯スポーツ」と「競技力向上」が大きな二本立てであると、いろいろな場面で説明している。</p> <p>「するスポーツの振興」はすべての年代に当てはまるものであり、これを中学生、高校生、成人など、ライフステージごとに整理した方が生涯スポーツとしてよりわかりやすいと考えた。</p> <p>一方、競技力向上を「競う（競技）スポーツの振興」という表題にし、生涯スポーツと同じように、中学生、高校生、成人などのライフステージごとに記載することで、「生涯スポーツ」と「競技力向上」という2つのコンセプトがより明確になると考えた。</p> <p>前回計画の「育てるスポーツの振興」は、子どもたちが取り組むスポーツのことであり、今回は子どものスポーツを「生涯スポーツ」と「競技力向上」のそれぞれに記述することを考えた。しかしながら、先般の推進審議会でも「育てる」という馴染みのある言葉を大事にしたいという、同様の意見をいただいた。したがって、皆さま方の意見を踏まえて、次の計画原案を提示したい。</p> <p>第1章については、計画の基本事項として策定の背景、趣旨などを記載する予定。特段の意見がなければ、第1章はこの項目で作成しようと考えている。</p>
委員	<p>第3章基本施策は計画の核になる部分である。したがって、本日の会議でたたき台まで作るのか、それとも意見交換に留めるのか、会議の進め方について市の考えを伺いたい。</p>
事務局	<p>基本的に、第3章「基本施策」の原案は事務局で策定するが、先ほど申しあげたように審議会からも「育てるスポーツ」についての意見をいただいているので、その点を含めて原案を策定する。</p>
委員	<p>「育てるスポーツの振興」を「競う（競技）スポーツの振興」とした理由をもう少し説明してほしい。</p>
事務局	<p>生涯スポーツはこれまでもライフステージごとに記載していたが、今回は「2競う（競技）スポーツの振興」でも子どもたちのスポーツを含めて示すという考え方をした。しかし、従来のように「育てるスポーツの振興」を前面に出した方がいいという意見が多い場合は、意見を反映する形で検討する。</p>
委員	<p>従来の「育てるスポーツの振興」は子どもたちのスポーツが中心のため、これを「するスポーツの振興」に振り分けるという意図はよくわかった。「育てるスポーツ」は「するスポーツの振興」という枠の中できちんと記載されると思う。</p> <p>一方、「競う」の場合、一部の優秀な子どもに対象が限られるのではないかとも思う。</p>
事務局	<p>これまでの「育てるスポーツ」は、ジュニア段階の取り組みも大事ということでそこで記載していたが、それを生涯スポーツの推進と競技力向上に分け、その中で子どもたちの取り組みを示したいと考えた。</p>

<p>委員 事務局</p>	<p>小学生以下を含めてすべての競技力の向上を目指すような計画ということか。 例えば、子どもたちにとっていろいろな段階でトップレベルにあるスポーツを観ることも大事になる。また、トップレベルの指導を受けるということもモチベーションに与える効果も大きい。いろいろな段階で高い目標を持ちつつ、努力するような姿勢を養っていくという捉え方を提案したいと考えた。</p>
<p>委員長</p>	<p>これまで「育てるスポーツの振興」として括っていた部分を「するスポーツの振興」の中で膨らませていく考えだと思う。この考え方でいくか、あるいは従来の考え方を踏襲するかの議論も必要であり、「する」「競う（競技）」「支える」「みる」の4分野にする場合、その理由づけも必要になる。 この他では、50：50 という均衡のとれた二極化ではなく、10：90 という二極化である今の状況では、小さい方の集団に対するアプローチを仕掛け、10年かけて達成するという壮大な計画が必要であり、それを阻害する要因も考えていかなければならない。私は「健康」がその阻害要因に挙げられるのではないかと思う。 例えば、調査結果で「健康になりたい」が74%であるが、その方たちの全員がスポーツをすれば、直ちに目標が達成できるはずである。しかし、そうっていないということは、スポーツで健康になるという考え方は成立せず、逆に健康な人がスポーツをしている、もっと言えば、健康にならないとスポーツに向かえないという捉え方ができてしまう。 健康になるための条件が阻害されるという点では、健康づくりを取り巻く様々な問題や、子どもの引きこもりも強く絡んでくる。子どもたちの引きこもりなどの問題を解決しないと、スポーツの推進が達成できないという考え方にもなる。 この会議に色々な分野の行政の専門家たちが参加しているのもこうした背景があるからだと思う。こうした問題の解決の糸口を見つけていくことは非常に難しい。そうしたことを直感的に委員の皆さんが感じているため、「競う（競技）スポーツの振興」でいいのだろうか、という議論になっていると思う。こういった点に関し、もう少し意見があれば伺いたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>現行の「育てるスポーツの推進」では、「1 子どもたちのスポーツの充実」「2 少年期の運動・スポーツ活動」「3 競技スポーツの充実」「4 指導者やコーディネーターの養成・配置」という流れになっていた。ここでは生涯スポーツの土台づくりとして子どもたちを育てることの重要性、子どもたちを育てるための指導者の育成などを記載している。 一方で、「するスポーツの振興」の中に「1 青年・成人のスポーツの促進」という項目がある。今回はこの部分に子どもたちの「するスポーツ」を記載したらいいのではと考えた。青年や成人になってから競技スポーツの促進ではなく、競うことの土台づくりを子どもの頃に行うことの必要性が明確になると思う。意見を伺いたい。</p>
<p>委員</p>	<p>10年前の計画の策定委員をした。当時は、4つの分野は「幹」であり、10年の間に肉付けし、枝が分かれしていく計画と記憶している。 アスリートになる子どもたちだけを特化して鍛えるのではなく、子どもたちみんなが継続して楽しくスポーツをやってほしいという視点を大事にする</p>

<p>委員</p> <p>委員長</p> <p>事務局</p> <p>委員長</p>	<p>方針であった。また、保育所に行っている小さな子どもから 80 才の高齢者までが体を動かすこと、健康増進を行うことも大事な視点だったことを思い出した。</p> <p>先ほど、「競う（競技）するスポーツの振興」について意見が色々出た。子どもの少ない地域ではスポーツに取り組むことが大切だと考えている。有望な子どもだけを特別に強化し練習させようとした場合、指導者はその子どもにかかりつきりになってしまい、残った子どもたちの頑張ろうとする気持ちが失せ、目標を失ってしまうこともあると思う。そのため、「競う（競技）スポーツ」にこだわらず、「育てるスポーツ」や「やるスポーツ」にも力をいれながら、10 年間で枝が太い幹に成長できるようなイメージで計画を策定したい。</p> <p>2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けた意気込みやシステムづくりなども盛り込みながら 10 年の計画を立てるということであり、選手の育成についても計画が策定できればいいと思う。目標の設定も大事になる。さらに、この会議のメンバーで共通認識を確認した方がいいと思う。</p> <p>今までの意見を踏まえて事務局でまとめてほしい。事務局から出された計画案を基に、会議でさらに意見を伺い、協議するという進め方もある。</p> <p>育てる方に枝葉がしっかりと伸びるようにしながら、一方はより高いところへ、もう一方は生涯へと向かうような計画案を策定したい。</p> <p>「育む」ということが捨てがたいという皆さんの意見である。それを踏まえた内容を事務局に願います。</p>
<p>委員長</p> <p>委員</p>	<p><b>■議題④長岡市スポーツ推進計画（仮称）に対する意見、提案について</b>  <b>（事務局から「スポーツ推進審議会」で出された意見」を説明）</b></p> <p>日頃、各専門の分野で活躍している策定検討委員の皆さんに、一人ずつ発言をいただきたい。</p> <p>県の障害者スポーツ協会に所属している。県の障害者スポーツ拠点として「新潟ふれあいプラザ」があり、その中に障害者スポーツ協会が設置され、2 名の職員で業務を行っている。</p> <p>県の中でも長岡市の取り組みは進んでいると感じている。従来は市の福祉課にボランティアの要請などをしていたが、最近ではスポーツ振興課が指導者の養成や障害者スポーツの振興に積極的に取り組んでいるのが長岡市だと感じている。</p> <p>国全体の障害者数は 780 万人といわれており、人口 15 人に 1 人程度の割合であり、今後も増える傾向にある。障害者といっても手足が不自由、目が不自由、耳が不自由などは外見でわかるが、知的発達障害は見た目ではわからない。それぞれの障害に合わせてスポーツの提供が必要となっている。一昨年スポーツ庁の調査によると、障害者のスポーツの実施率は 18.6%であり、気軽な体操も含めて、健常者の半分以下である。</p> <p>新しいスポーツ基本法では、従来の学校体育中心から、障害者、高齢者、子ども、女性などすべての人にスポーツを提供していく、という考えが示された点が一番変わったことである。2020 年の東京パラリンピックに新潟県から選手を出したいという目標はあるものの、障害のある人が身近な地域でいろいろなスポーツに親しむことが一番大事だと思っている。</p>

<p>委員長</p>	<p>障害者スポーツと健常者スポーツの違いは、健常者が100mを早い人は10秒台、遅い人でも20秒台で走ると思うが、障害者は早い人は10秒台、遅い人は2分や3分、もっとかかる場合もある。コースから外れる人や後ろに走る人、スタートできない人もいる。そうした障害者のスポーツには支える人の数が必要であり、障害に対する理解も大事になる。</p> <p>最近、福祉課に行くと「障害者のスポーツはスポーツ担当課に行ってほしい」といわれ、とても残念だ。それぞれの課が連携をしてタッグを組んでいかないと駄目だと思う。計画には、理解促進と連携という点を盛り込んでほしい。</p> <p>長岡市もいろいろな施設があるが、障害者がスポーツをやる時に一番大切なことは施設のバリアフリーではなく、障害者が自信を失い、なかなか社会にでられない点を理解してもらうこと。施設職員に障害者の心理面などを理解していただくと、障害者が気軽にスポーツに取り組むことができると思う。</p> <p>障害者が日常的に街に出るにも勇気がいる。外見が障害者とわからない軽度の知的障害の方などは別として、見た目がはっきりわかる人は迷惑をかけるという思いが強いため、なかなか社会にでられないことも多い。また、障害者に対して無理解な人が多いため、視覚障害者が通る道の点字ブロックに自転車が置いてあるなど、通路を妨げていることもある。スポーツに携われる状態にある障害者は、障害者スポーツの振興のためにスポーツの道を開いていこうと努力している。</p> <p>障害の程度が高い方は動けなくなってしまうため、メタボリックシンドロームとなっている人も多い。スポーツをする以前にこの問題から改善をしていかなければならない。日常生活として食事の仕方、社会に出る準備をしながら、生活を活性化していくところからはじめて、ようやくスポーツにたどり着くことになり、そこまでの準備を支えることが大事になってくる。</p> <p>こうしたことをどこまで盛り込めるか。「それはスポーツの範囲ではない」といってしまうと、たらい回しになる。この会議では理解を深めていけると思うが、上の機関にいくと理解してもらえない。このことは障害者だけの問題ではなく、こうした点をどこまでスポーツ計画に取り込めるのかという課題でもある。</p>
<p>委員</p>	<p>一個人がスポーツをする環境として受け皿側の環境もしっかり考えてほしい。スポーツクラブの運営に支障をきたさずに、指導者の充実を図っていくことなども計画に盛り込んでほしい。</p> <p>長岡市は様々な人たちがスポーツ推進のために努力している自治体であり、スポーツするための環境も整っている。一方、「お金を出してスポーツをする」という感覚が市民にはまだ欠けていると感じる。スポーツ指導者は他の仕事との掛け持ちが多く、スポーツの指導だけで生活を成り立たせるのが難しい。こうした視点も踏まえて、計画案を考えていただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>私は管理栄養士として高校生を中心にアスリートの食事の指導を行っている。健康でいるためには食事が基本である。幼少時からの食事の在り方がその後の健康にもつながっていく。アスリートだけではなく、健康の基本はあくまでもバランスの取れた食事である。</p> <p>中学生や高校生などで一番の問題は食事時間とその内容である。授業が終わっ</p>

委員長	<p>た後、スポーツ少年団や部活に取り組むと自宅での食事の時間が遅くなる。それを解消する工夫がいきわたっていないのが現状である。</p>
委員	<p>スポーツの栄養に対する意識は以前に比べると高く、練習前には補食、練習後には直ちに食事となっている。しかし、スポーツ選手用の食事を家庭あるいは学校や施設で提供するという事は県内にも全国にもほぼない。</p>
委員長	<p>私は、家庭の負担や学校の負担を軽減できればという考えから、アスリートの食事を行っている。最近ではスポーツをする人にとっての食事の重要性が随分と広まっていると感じている。</p>
委員長	<p>アスリートの子どもがいる家庭では、共働きや兄弟姉妹がいて手がかかり、アスリート用の食事まではできないというのが一般的であろう。また、子どもの貧困などと絡んで、スポーツに必要な栄養摂取もなかなか実行に移せないのが現実である。こうした実態からどう発展させ、普及させていくか。そのための人材をどう確保していくかなど、以前になかった新しい課題がでてきている。</p>
委員	<p>高齢者の孤独化を防ぐための高齢者の健康づくりをスポーツ振興課、長寿はつらつ課などにご協力いただき、市民大会やグランドゴルフなどを展開している。</p>
委員	<p>全国に先駆けて長岡方式のゲートボール大会も長岡市で開催しているが、高齢者は車の運転ができず、外出する機会が減る。その受け皿としてコミュニティがあるので、コミュニティ事業として、高齢者の健康づくりのサポートを今まで以上にお願いしたい。</p>
委員長	<p>また、グランドゴルフのコートに電気がない、サッカー場の横のゲートボール場はコートがサイズが適切ではないなど、利用がしにくい状態である。高齢者の利用頻度を増やし、健康づくりを促進するため、施設の充実もお願いしたい。</p>
委員長	<p>「身近な施設がほしい」「指導者がほしい」という意見はアンケートの回答にもあったので、市で検討してほしい。</p>
委員長	<p>今後 10 年間の長岡市スポーツ推進計画策定にあたり、委員の皆さんからのご意見を聞かせていただいた。事務局には本日の意見を参考に計画案の作成を進めていただくようお願いする。皆さんからの貴重な意見に感謝し、本日の議題を終了する。</p>